

---

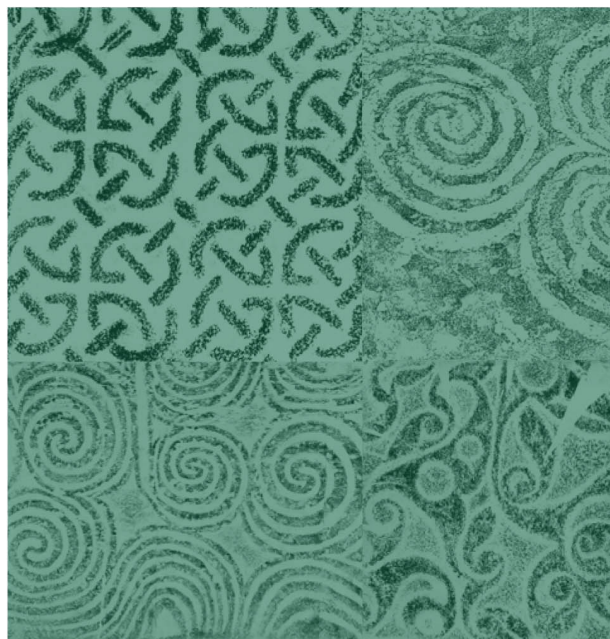
# はじまりの線刻画

—アイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ—

Stone / Rock Carvings as Beginnings

— From Ireland, Scandinavia to Amami Islands —

## 実施報告書



多摩美術大学 芸術人類学研究所

Institute for Art Anthropology  
Tama Art University

---



# 01 主催挨拶

---

2018年6月16日から6月30日にかけて、多摩美術大学・芸術人類学研究所は、展覧会「はじまりの線刻画—アイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ—」を、多摩美術大学・八王子キャンパス・アートテーク・ギャラリーを会場に開催いたしました。13日間の会期中には、学内外から約1,600人に及ぶ多くの皆様にご来場いただき、盛況のうちに無事終了することができました。

芸術人類学研究所は、上智大学グリーンケア研究所・身心変容技法研究会とともに「ユーロ＝アジア文明の深層にある自然と人間」をテーマに共同研究を行っています。昨年度はシンポジウム「大地の記憶を彫る—スカンジナビア・アイルランドのロックカービングと身心変容」を開催しました。その成果を踏まえ、本年度は、展覧会の開催により当テーマを深く掘り下げることを目的といたしました。

展覧会では、1970年代から90年代に大野忠男氏（画家・美術史家、1932-2010）・齊藤五十二氏（書家、1953-）がアイルランドとスカンジナビアで採取した「ケルト十字架」と「岩絵」の拓本コレクションを中心に紹介しました。また、芸術人類学研究所が近年共通テーマに掲げる「土地と力」や、ユーロ＝アジア文明の古層にある「死生観」を再発見するために、奄美群島や現代美術にまで拡大し展示しました。展示作品数は、線刻画拓本86点、現代美術作品12点の総数98点におよびます。会期中は関連イベントとしてトークやディスカッション、コンサートなども実施し、多くの方々に人類の芸術の根源に触れていただく機会となりました。

このたび、開催概要や実施結果を内容とする報告書を取りまとめました。本研究所は、今回の展覧会の成果及び課題を活かし、今後も学内外のさまざまな連携により、多彩な活動と発信をおこなってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、ご来場いただきました皆様をはじめ、本展の開催に当たりご支援とご協力をいただきましたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。

2018年9月  
多摩美術大学・芸術人類学研究所

## 02 開催概要

---

### はじまりの線刻画 —アイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ—

#### 会期

2018年（平成30）6月16日（土）～6月30日（土）

開催日数：13日間

休館日：日曜日（6/17、6/24）

#### 開場時間

10:00～18:00

#### 入場料

無料

#### 会場

多摩美術大学 八王子キャンパス アートテーク・ギャラリー102-105  
（東京都八王子市鎌水 2-1723）

#### 主催

多摩美術大学 芸術人類学研究所（所長：鶴岡真弓）

#### 共催

上智大学グリーンケア研究所・身心変容技法研究会（代表：鎌田東二）

#### キュレーター

渡辺真也

#### 後援

アイルランド大使館／カフェ・バツハ（東京・田口文子）

#### 協力

齊藤五十二／本阿弥清／一般財団法人 松澤宥プサイの部屋／鹿児島県徳之島天城町教育委員会／Live Forever Foundation／株式会社ゼロユニット

#### スタッフ

大友真希／大西由佳／新津厚子／有馬智子（多摩美術大学 芸術人類学研究所）

#### 特別協力

多摩美術大学美術学部学生有志（展覧会サポーター）

## 03 展示

### 展示構成

展示室1 アイランド、ケルト十字架の線刻画は芸術だ！

新石器時代の巨石／ラ・テーヌ文化の広がり／初期キリスト教時代 組紐にからまれた十字架

展示室2 スカンジナビアの線刻画と漢字の起源

漢字そっくりの線刻画／アルファベットと表意文字

展示室3 アイランドから奄美群島へ：ユーロ＝アジアの両端に残る文化の古層

世界軸としてのラ・テーヌ石と須弥山／天空を横切る太陽の旅／徳之島の線刻画／輪廻について



ギャラリーエントランス



展示室1 (ギャラリー102・103)



展示室2 (ギャラリー104)



展示室3 (ギャラリー105)

会場撮影：土田祐介

## 展示作品一覧

### 【線刻画拓本】

	採拓遺跡名	遺跡年代	サイズ (好×ヨ)
1-1	ニューグレンジ 古墳内部壁面	3500B.C.	65 x 51cm
1-2	ニューグレンジ 墓室内上部	3500B.C.	29 x 134cm
1-3	ニューグレンジ 墓室内下部	3500B.C.	40 x 155cm
1-4	ニューグレンジ 古墳入り口の巨石	3500B.C.	左右 237cm
1-5	ニューグレンジ 古墳入り口の巨石	3500B.C.	135 x 370cm
1-6	ニューグレンジ 古墳入り口の巨石	3500B.C.	左右 350cm
1-7	トゥーローのラ・テーヌ石 表面の文様 ★	300-200B.C.	90 x 66cm
1-8	トゥーローのラ・テーヌ石 表面の文様	300-200B.C.	90 x 94cm
1-9	ダンローのオガム石		高さ 195cm
1-10	モンタガートのオガム石		高さ 209cm
1-11	マラムストの石柱表面	4世紀	91 x 45cm
1-12	マラムストの石柱裏面	4世紀	79 x 36cm
1-13	マラムストの石柱側面	4世紀	65 x 20cm
1-14	クロンマックノイズ 墓石板	5-7世紀	60 x 44cm
1-15	クロンマックノイズ 墓石板	5-7世紀	53 x 45cm
1-16	クロンマックノイズ	8-10世紀	60 x 35cm
1-17	クロンマックノイズ ★		85 x 46cm
1-18	クロンマックノイズ		110 x 57cm
1-19	クロンマックノイズ		75 x 54cm
1-20	クロンマックノイズ		70 x 37cm
1-21	ガレン 墓石板 ★		65 x 32cm
1-22	ダイセルト オ・ディー のハイクロス	12世紀	200 x 60cm
1-23	クノンマックノイズの石柱 二頭のライオン (表) ★		60 x 35cm
1-24	クノンマックノイズの石柱 二頭のライオン(裏) ★		60 x 35cm
2-1	タヌム		90 x 102cm
2-2	フレデリックスタッド		51 x 37cm
2-3	フレデリックスタッド		114 x 91cm
2-4	トロンハイム		69 x 136cm
2-5	トロンハイム		68 x 92cm
2-6	トロンハイム		137 x 70cm
2-7	タヌム		70 x 88cm
2-8	タヌム		28 x 70cm
2-9	タヌム		70 x 171cm
2-10	タヌム		42 x 100cm
2-11	タヌム		118 x 70cm
2-12	アルタ		65 x 24cm
2-13	アルタ		91 x 182cm
2-14	アルタ		104 x 49cm
2-15	アルタ		92 x 42cm
2-16	タヌム		43 x 63cm
2-17	タヌム		100 x 70cm
2-18	タヌム		69 x 43cm
2-19	タヌム		72 x 59cm
2-20	タヌム		91 x 182cm
2-21	タヌム		70 x 53cm
2-22	タヌム		70 x 20cm
3-1	ニューグレンジ 古墳内部壁面 ★		65 x 46cm
3-2	イニシモーア島組紐		152 x 41cm

	採拓遺跡名	遺跡年代	サイズ (好×ヨ)
3-3	カルンドナー ハイクロスの隣の墓地にある石柱の西面		157 x 53cm
3-4	カルンドナー ハイクロスの隣の墓地にある石柱の東面		157 x 53cm
3-5	キリーンコルマック		高さ 152cm
3-6	カルンドナーのハイクロス	6-7 世紀	高さ 250cm
3-7	ガレン墓石板		42 x 37cm
3-8	ガレン墓石板		50 x 50cm
3-9	クロンマックノイズ墓石板		23 x 25cm
3-10	ガレン墓石板		27 x 30cm
3-11	ガレン墓石板		32 x 20cm
3-12	クロンマックノイズ墓石板		40 x 36cm
3-13	クロンマックノイズ墓石板		22 x 32cm
3-14	クロンマックノイズ墓石板		40 x 32cm
3-15	クロンマックノイズ墓石板		57 x 43cm
3-16	クロンマックノイズ墓石板		44 x 50cm
3-17	ガレン墓石板		60 x 52cm
3-18	ガレン墓石板		68 x 46cm
3-19	ロック・オブ・キャッセル大聖堂内部の石棺側面 (南面)	15 世紀頃	58 x 160cm
3-20	ロック・オブ・キャッセル大聖堂内部の石棺側面 (北面)	15 世紀頃	58 x 160cm
3-21	スライゴー僧院内部石棺側面		89 x 297cm
3-22	ムーンのハイクロス基部		115 x 88cm
3-23	キャッセルストレンジのラ・テーヌ石表面の文様 (部分)		30 x 50cm
3-24	キャッセルストレンジのラ・テーヌ石表面の文様		87 x 128cm
3-25	タヌム		51 x 70cm
3-26	アルタ		27 x 44cm
3-27	戸森第 1 線刻画		182 x 91cm
3-28	トロンハイム		69 x 136cm
3-29	アルタ		70 x 136cm
3-30	戸森第 2 線刻画		91 x 54cm
3-31	フレデリックスタッド		42 x 70cm
3-32	フレデリックスタッド		69 x 126cm, 136 x 69cm
3-33	トロンハイム		69 x 136cm
3-34	アルタ		48 x 107cm
3-35	タヌム		73 x 495cm
3-36	戸森第 2 線刻画		182 x 91cm
3-37	戸森第 2 線刻画		90 x 71cm
3-38	犬田布岳の線刻画		66 x 43cm
3-39	犬田布岳の線刻画		182 x 72cm
3-40	戸森第 1 線刻画		142 x 91cm
3-41	戸森第 1 線刻画		182 x 91cm

※齊藤五十二氏所蔵。

※★印は多摩美術大学芸術人類学研究所所蔵。

## 【現代美術作品】

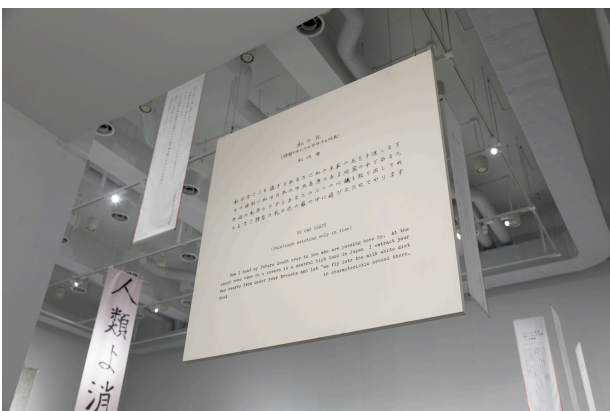
	作家名・作品タイトル	制作年	素材・サイズなど
4-1	飯田昭二 《Paper》	2018年	紙、145×155cm
4-2	飯田昭二 《Paper》	2018年	紙、145×135cm
4-3	飯田昭二 《Paper》	2018年	紙、135×150cm
4-4	飯田昭二 《Half & Half》	1968/2008年	ミクストメディア、40×40×40cm
4-5	照屋勇賢 《Constellations》	2018年	3つの紙袋、サイズ可変
4-6	照屋勇賢 《Notice - Forest COS》	2015-2017年	紙袋、41.5 x 41.5 x 15cm
4-7	照屋勇賢 《Current》	2009年	2つのガラス、7.3 x 13.5cm
4-8	松澤宥 《私の死》	1970年	木製パネル、102 x 102cm
4-9	松澤宥 《人類よ消滅しよう》	1966/2017年	幟、レプリカ
4-10	渡辺真也 『ユーラシアの音楽を探して』	2014年	フルHDビデオ、ステレオ 33分 30秒
4-11	渡辺真也 『朝崎郁恵による「哀史奄美」』	2017年	4Kビデオ、ステレオ 23分 25秒
4-12	渡辺真也 映画『神の唄』第一章	2018年	4Kビデオ、5.1chサラウンド、21分



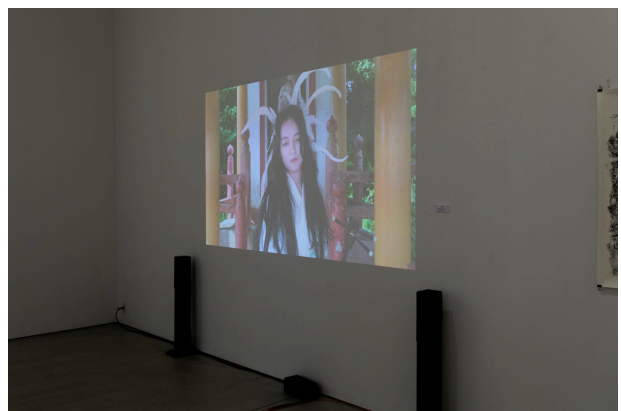
飯田昭二 《Half & Half》



照屋勇賢 《Constellations》



松澤宥 《私の死》



渡辺真也 映画『神の唄』第一章

作品撮影：土田祐介

## 04 関連イベント

### キュレータートーク+奄美シマ唄ミニコンサート

開催日時：6月16日（土）15:00～16:00 / 場所：アートテーク・ギャラリー105

内 容：本展キュレーター・渡辺真也による展示解説及び、成瀬茉倫（映画『神の唄』アマミコ役）による奄美シマ唄ミニコンサートを開催。展示室内に奄美の伝統民謡が響き渡り、最後には参加者も唄に合わせて踊った。

参加人数：約80名

### トーク「ユーロ=アジアの古層にある土地の力」

開催日時：6月22日（金）14:45～17:00 / 場所：アートテーク・ギャラリー102-105

内 容：鶴岡真弓（IAA 所長）、港千尋（IAA 所員）、安藤礼二（IAA 所員）によるトークイベントを開催。展示室1～3を廻りながら線刻画にみる文様と文字の力について語り合われた。

参加人数：約80名

### アーティストトーク「現代美術・もの派・グループ幻触」

開催日時：6月29日（金）14:00～14:30 / 場所：アートテーク・ギャラリー105

内 容：飯田昭二（美術家）、本阿弥清（美術評論家連盟会員）、渡辺真也（本展キュレーター）によるトークイベントを開催。「もの派」の起源に位置するグループ幻触の活動・飯田昭二の作品について語り合われた。

参加人数：約120名

### 「アイルランドから奄美群島へ」ディスカッション+奄美シマ唄コンサート

開催日時：6月29日（金）14:45～17:00 / 場所：アートテーク・ギャラリー105

内 容：齊藤五十二（書家、線刻画拓本採取・所蔵者）、鎌田東二（上智大学グリーンケア研究所特任教授）、ピーター・マクミラン（翻訳家）、鶴岡真弓、渡辺真也によるディスカッションを開催。各々の専門から、ユーロ=アジア文明の深層に残る自然・人間・芸術について語り合われた。朝崎郁恵（奄美シマ唄・歌手）による奄美シマ唄コンサートも行った。

参加人数：約200名



トークイベント（6月22日開催）



ディスカッションイベント（6月29日開催）



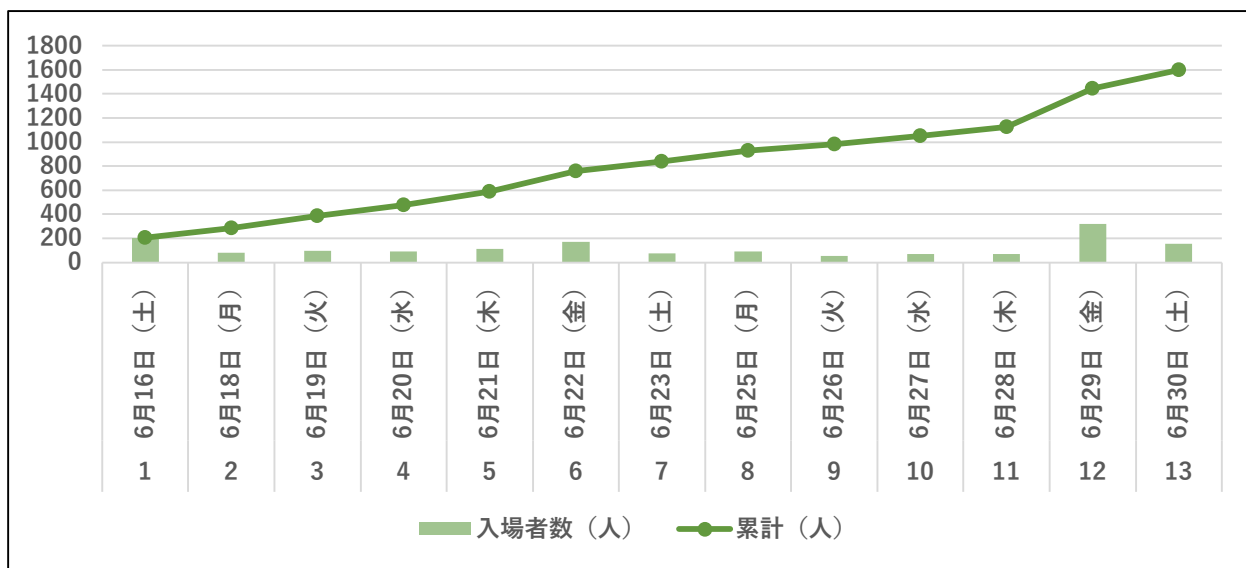
# 05 開催記録

## 入場者数

総入場者数 1,599 名

- ・一日の平均入場者数は123人で、関連イベントの開催日（6/16：205人、6/22：173人、6/29：320人）は入場者数が多かった。
- ・会期中で入場者数が最も多かったのは、ディスカッション+奄美シマ唄コンサート「アイルランドから奄美群島へ」を開催した6月29日（金）の320人だった。

	月日	天気	入場者数（人）	累計（人）	備考
1	6月16日（土）	●	205	205	トーク+ミニコンサートイベント開催
2	6月18日（月）	●	83	288	
3	6月19日（火）	☀	98	386	
4	6月20日（水）	●	90	476	
5	6月21日（木）	●	110	586	
6	6月22日（金）	☀	173	759	トークイベント開催
7	6月23日（土）	●	77	836	
8	6月25日（月）	☀	91	927	
9	6月26日（火）	☀	53	980	
10	6月27日（水）	☀	71	1,051	
11	6月28日（木）	☀	72	1,123	
12	6月29日（金）	☀	320	1,443	ディスカッション+コンサートイベント開催
13	6月30日（土）	☀	156	1,599	



※会期は13日間。

※会場監視スタッフがギャラリーエントランスにてカウントを行った。

## 展覧会サポーター

多摩美術大学の学生を対象に、展示運営に協力してくれる学生サポーター（無償）を募集した。協力内容として「展示・設営スタッフ」「会場監視スタッフ」に分かれて活動を行った。積極的な学生たちの参加により、展示準備から会期中を通じて、展覧会の成功に大きく貢献した。

### 総参加者数 33人

- ・展示・設営スタッフ数 延 29人
- ・会場監視スタッフ数 延 64人

※参加者所属は、芸術学科 27人、絵画学科・油画専攻 2人、情報デザイン学科 3人、グラフィックデザイン学科 1人。

※展示・設営作業日数は 2日、撤去作業日数は 1日。

※会場監視は時間交代制（10:00-12:30、12:30-15:00、15:00-18:00）、各時間 2人を配置。

### ■サポーター活動のあゆみ

- 5/17(木)～ IAA ウェブサイトにて「展覧会サポーター募集」公開・登録開始
- 5/17(木)～ IAA 所員開講授業にて、展覧会開催とサポーター募集のPR
- 5/30(水) 登録者説明会開催（於 IAA）
- 6/14(木) 展示・設営作業 1日目
- 6/15(金) 展示・設営作業 2日目（終了）
- 6/16(土)～ 会期中、展示会場監視活動
- 7/2(月) 撤去・搬出作業（活動終了）



線刻画拓本を展示中のサポーター



キュレーターの指示を受けながら展示作業

## 広報

学内外に向けて展示開催を周知すべく、芸術人類学研究所のホームページを中心として複数のインターネットツール（SNS など）を活用し情報発信を行った。

チラシ、ポスター、パンフレットのデザインは、展覧会コンセプトに適したビジュアルデザインとし、また全体に統一感の高いものとした。

### ■ウェブ

#### ・ IAA ホームページ、twitter

5/16(水)に開催情報を公開した。6/21(木)にプレスリリースを公開。展覧会に関する情報や関連イベントの告知などをタイムリーに発信するとともに、ハッシュタグ機能を利用して情報拡散を行った。

#### ・ チラシミュージアム

全国の美術館・博物館で開催中の展覧会ポスターを閲覧できるアプリ「チラシミュージアム」に登録し、情報公開を行った。



IAA twitter での情報発信



「チラシミュージアム」での情報発信

■制作物

・チラシ、ポスター

展覧会コンセプトを表現したイメージビジュアルを用いてデザインに統一感のあるものを製作し、展覧会開催を印象づけた。チラシ、ポスターは学内の各学科・部署へ配布・掲示を依頼するとともに、共通教育学科棟、グリーンホール（食堂）、デザイン棟などの掲示板に掲示した。また、展示関係者（キュレーター、上智大学グリーンケア研究所、出品者、出演者など）、都内の美術館・博物館・関連大学・関連機関へ郵送し、配布・掲示依頼を行った。

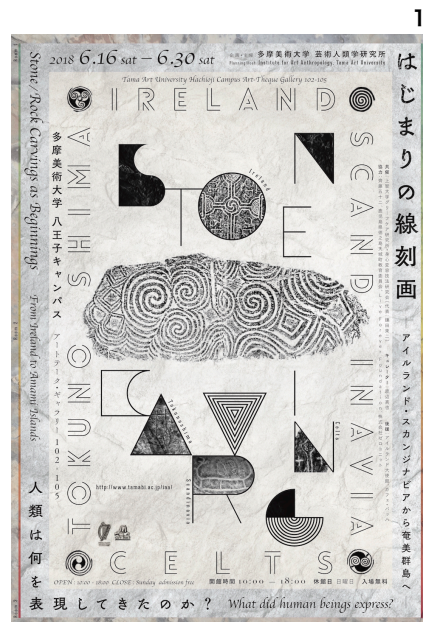
【チラシ仕様】 A4/両面カラー/マットコート 90kg/10,000部

【ポスター仕様】 A1/片面カラー/アラベールスノーホワイト 110kg/90部

・パンフレット

展示解説及び出品作品（線刻画拓本）の画像を掲載した展示パンフレットを、チラシ、ポスターとデザインを統一して製作。会期中、展示会場にて入場者に無料配布を行った。

【パンフレット仕様】 A4/中綴じ 24頁/マットコート 135kg、上質紙 70kg / 800部



1



2



3



4

- 1 展覧会チラシ表面
- 2 展覧会チラシ裏面
- 3 展覧会パンフレット表紙・裏表紙
- 4 展覧会パンフレットp1/p2

## ■ 広告・プロモーション

展覧会開催の周知と会場への誘引を目的に、大学正門横及び東門横、アートテーク出入口にバナーを設置した。また、メディアセンター1F エントランス、アートテーク・ギャラリー入口のデジタルサイネージにて広告展開を行った。



正門前にバナーを設置 (上)  
アートテーク出入口にバナーを設置 (下)

はじまりの線刻画 6.16-6.30 10:00-18:00  
 アイルランド・スカンジナビアから奄美群島へ アートテーク・ギャラリー 102-105

2018 6.16 sat - 6.30 sat 多摩美術大学 芸術人類学研究所  
 Tama Art University Hachioji Campus Art-Toque Gallery 102-105  
 Stone / Rock Carvings as Beginnings From Ireland to Shumay Islands

多摩美術大学 八王子キャンパス  
 アートテーク・ギャラリー 102-105  
 http://www.tamaki.ac.jp/iaa/

人類は何を表現してきたのか? What did human

開催!

IAA 多摩美術大学 芸術人類学研究所  
 Institute for Art Anthropology  
 Tama Art University

メディアセンターでのデジタルサイネージ

## はじまりの線刻画 —アイルランド・スカンジナビから奄美群島へ—

### 企画運営

多摩美術大学 芸術人類学研究所

所長 鶴岡真弓

所員 安藤礼二

榎木野衣

平出 隆

港 千尋

スタッフ 大友真希 (ディレクション・報告書作成)

大西由佳

新津厚子

有馬智子

### キュレーター

渡辺真也

### 印刷物デザイン/展示会場グラフィック

AIZAWA OFFICE inc.

多摩美術大学 芸術人類学研究所

〒192-0394 東京都八王子市鎌水 1-1723 (メディアセンター4F)

TEL 042-679-5697

FAX 042-679-5698

[www.tamabi.ac.jp/iaa/](http://www.tamabi.ac.jp/iaa/)

2018年9月14日

©2018 Institute for Art Anthropology, Tama Art University

無断転写、転載、コピーを禁じます。